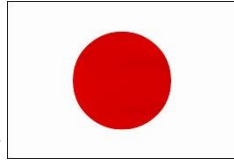




ナミビア通信

～のんびり(Nombili)～



青年海外協力隊
岩塚善哉
Nov. 2019 No.14

9・10月にはラグビーワールドカップが日本で開催され、ナミビア対南アフリカの試合が愛知県でありました。ナミビアは負けてしまいましたが、今私が活動している国の代表選手が、私の故郷で試合を行ったことはとても感慨深かったです。また、学用品をナミビアに送る支援をしている日本の企業があった、という新聞記事も読みました。多くの人にナミビアを知ってもらおう機会となり嬉しくなりました。

トレードフェア(Trade Fair)

毎年、協力隊員が出展しているトレードフェアというフェスティバルがあります。JICA、日本大使館と協力し、私たちの活動の様子や日本の文化などの紹介を行いました。日本の浴衣体験や、コマやけん玉、折り紙などを紹介し、日本について知ってもらえる良い機会にすることができました。また、今年には広島県出身の隊員の企画で、原爆展も同時に行いました。映像やポスターなどを通して原爆の悲惨さや世界平和の大切さについて、伝えました。海外にいるからこそ感じる日本の良さや歴史について考えさせられるきっかけとなりました。



日本の浴衣体験や、コマやけん玉、折り紙などを紹介し、日本について知ってもらえる良い機会にすることができました。また、今年には広島県出身の隊員の企画で、原爆展も同時に行いました。映像やポスターなどを通して原爆の悲惨さや世界平和の大切さについて、伝えました。海外にいるからこそ感じる日本の良さや歴史について考えさせられるきっかけとなりました。

様々な職種のボランティアが活動しています」～協力隊員に聞きました～

「原爆展」を企画した 広島県出身 酒井剛佑さん

・職種(活動内容):「小学校教育」隊員

私は小学校の教員として7年間広島市で働いた後、ナミビアの北部にある「ンタラ」という小さな村で活動をしています。2018年の8月から「ンタラコンバインドスクール」という学校で、小学校5年生と6年生に算数を教えています。



・「原爆展」の開催にあたって、なぜナミビアで紹介しようと思ったのですか。



1945年8月6日の朝に、世界で初めて核兵器が人類に対して使用されました。そして、その被害にあった人々が広島の人たちです。今から70年以上も前のこととなるため、実際の被爆経験者はずいぶんと少なくなっており、私たちのような戦争を知らない世代が、核兵器の恐ろしさや戦争の愚かさを伝えていかなければなりません。広島出身の一人として、この悲惨な歴史を多くの人に伝えたいと思い、「原爆展」の開催を決めました。

・「原爆展」を開催してどう感じましたか。

原爆に関する資料や、私の発表に参加してくれた人たちは平和に対する興味・関心が高いように感じました。特に、参加者のナミビア人に「教科書では、原爆については1ページにも満たない程度で紹介されているだけだ。今回は詳しく知ることができて良かった。」と言ってもらえました。その言葉を聞いて、原爆展を開催した意味があったと思いました。



・中学生へのメッセージをお願いします。

私が中学生の時、将来海外でボランティアをするなんて夢にも思っていませんでした。英語が苦手な私でも、海外でボランティアをすると決心し、私の夢が叶いました。中学生になり、現実がだんだんと分かると、夢を語ることに恥ずかしかったり、あきらめたりすることがあるかもしれません。しかし、今やりたいことがあるなら、叶えたい夢があるなら、ぜひ挑戦してほしいです。そして、やりたいことがまだ見つからない人は、これからゆっくり時間をかけて、自分の夢を見つけてほしいと思います。